

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2071500330		
法人名	医療法人社団敬仁会		
事業所名	グループホームまほろば		
所在地	長野県塩尻市大字宗賀1295番地		
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果市町村受理日	平成24年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成24年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりに寄り沿った介護を心がけ、尊厳を大切にし穏やかに、そして安心と安らぎのある施設づくりをしています。ご家族様の希望があれば、看取りケアを行います。馴染みの環境の中、馴染みの顔ぶれで最後まで看取らせていただきます。ご利用者様、ご家族の希望を大切に、ご利用者様、ご家族様、医者、看護師、介護士と話し合いを行い、ご利用者様にとって必要な事、大切な事を考え、その人らしく最期を迎えて頂きたいと考えています。法人の目標でもある「共に歩む」ご利用者様、ご家族、職員と共に歩む。を大切にしています。また、地域の方との交流も大切にし、地域の方々とも共に歩みたいと考えています。ご利用者様、ご家族様、職員がいつも笑顔でいられる事を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道19号線に面しているが、フェンスの脇の植え込みや木々、玄関には可愛い季節の鉢花が並び交通量の多さを感じさせない環境である。窓からはぶどう棚、瓦ぶきの民家、里山が望める馴染みやすい眺望がある。ホームでの看取り経験が多く家族、医療機関、管理者、職員、法人との信頼関係、連携が構築されてきている。常に個人を尊重し、入居者に寄り添った支援を進めるために日々研鑽している姿勢が伺える。3.11東北、栄村、松本市での震災を機に備蓄品は法人倉庫に確保、停電時の対応策にランタンの備蓄を含める、消防署から積極的に指導を受ける等地域との協力体制の課題を意識しながら災害対策に真剣に取り組んでいる。職員研修はじめ緊急時の医療の受入、ワゴン車等での外出行事支援、建物の補修管理、倉庫の利用等法人との太いパイプが出来ている。施設の安心、安全、信頼を支えている。管理者自ら福祉の専門性を高め個々を尊重して寄り添い、安心とやすらぎのある支援を信頼関係の厚い職員と一緒に目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )		項目		取り組みの成果			
		項目		取り組みの成果			
		↓該当するものに○印		↓該当する項目に○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「共に歩む」を基に、施設目標や個人目標を立て取り組んでいる。理念を共有し実践に取り組んでいる。	法人の理念「共に歩む」を基本に施設目標を立て、入居者、家族、職員、地域の方々と共に歩むことを目指している。満遍なく入居者、家族、地域の方との関わりの機会を多く作るよう理念の実践に努めている。	法人の理念を活用しつつ、今まで培ってきた寄り添いのケア、地域で暮らし続ける意義を含めたグループホーム独自の理念を作成されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	施設の周りがブドウ園になっており、散歩に出かけた時、立ち話をしたり、その場で葡萄を購入している。また地域の行事に出かけられる時は参加させて頂いている。また喫茶店を開催し、地域の方にもおいで頂いたり、認知症の勉強会にもお呼びしている。	地域行事(かかし祭り、ワイン祭り)やホーム行事(文化祭時に地域の方々や学生を招き菓子作りやお茶会、入居者手作りのコースター、アクリルたわしをバザーに出店等)に参加。尚、まごころニュースを地区役員に配布し地域とのつながりを大切にして入居者の理解が得られるよう取組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中に、ドクターによる「認知症とは」という内容で講義をして頂いたり、相談や、支援方法等をお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、ご利用者の状況状態の報告、施設内での取り組み、地域の方の認知症介護について良く相談される事などを、話し合い、互いにサービスに活かしている。また地域の消防団の方にも、施設内を見て頂いたりしている。	施設の運営状況、入居者の状況、状態を報告している。専門医から認知症に関する学習会をして認知症の理解を深める機会を作っている。地区役員から行事等に対して建設的な意見が多く出されていることを議事録から確認できた。	・複数の看取り期の入居者がいる時期の開催は困難と察する。会議設定は柔軟にされることを望む。・離設に関する検討も今後重要である。警察署の出席も検討されたい。・機能低下に伴い菜園作り等職員だけでは困難な状況。ボランティア受入れの検討を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価の報告や、施設の状況を伝えたり、相談員の訪問や地域包括の方との情報交換相談を行い協力して頂いている。	外部評価、施設状況については都度報告している。運営推進会議出席の折に施設の状況は把握されている。2年に1回実地指導を受けている。介護保険更新申請時、訪問調査員に状況を詳細に伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの意識を持っている。しかしリスクを重視しなければいけない状況(施設前がR19で交通量が非常に多い)になった時は、施錠する場所もある。	身体拘束をしないことを原則としている。入居時環境に馴染めず離脱願望のある方に対し常時見直しをして短期間に非常口の施錠を解錠に向ける取組をしている。法人で開催している研修に参加。管理者は声掛け等含め精神的な拘束もしないケアをするよう随時指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は勉強会を開いたり、ミーティング等で話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で勉強したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族と一緒に書類の読み合わせを行い、十分な時間をかけ質問等を受けながら、理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し、意見や要望を自由に投函して頂けるようにし、気軽に相談、要望を話していただけるような環境作りを心がけている。また、市の相談員の訪問の機会を設けている。	面会頻度の高い土日、祝日は入浴等を軽減して職員が家族対応が出来る状況を作っている。話し易い環境作りに配慮をしている。家族から出された意見、要望は管理者、職員で共有し、反映している。介護サービス相談員の訪問がある。	意見、要望が出易くする為に確認したい項目を挙げてアンケート用紙を置くなどの方法を検討することを希望する。今まで以上に家族会の折に意見、要望が出易くなる工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の意見を聞いたり、申し送り、ミーティング、カンファレンス等で意見交換を行い反映させるようにしている。	年2回個別面談の実施。振返り、目標の設定をする。毎月職員会議をしている。管理者は連絡、決定事項は全ての職員が理解するように努めている。意見が出し易いよう気配りをしている。内容毎に関係機関に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から意見を聞き、自発的に取り組む姿勢を大切に、意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を積極的に活用し、職員全員が参加できるよう取り組んでいる。その他で行われる研修会にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講習会などに参加し、意見交換ができるようにしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の思い、生活歴、環境等、ご本人や家族、親せきの方、友人から情報を頂き、不安な事、要望に答えられるように努めどんな時も安心して生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも、どんな時でも話しやすい環境を作り、ご家族様の話に耳を傾け信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意見、要望を大切に、ケアプランの作成を行い、ケアプランに基づいた介護を行い、他のサービス利用についても紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様を、家族として尊敬し、受容、共感できる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの意見、要望をお聞き話し合いや、ご家族様に協力して頂ける事、施設で行える事を共有し、共にご本人を支えていける関係を築いていける努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や、馴染みの方が来所された時、落ち着いた環境でお話しいただけるよう配慮に心がけ、お手紙などを差し上げ、関係が途切れないよう努めている。	入居前の人間関係の把握は家族の協力を得て把握するように努めている。馴染みの方からの電話があった時などはスムーズな対応が出来ている。手紙の交換、墓参り、馴染の方と居室での交流など馴染の関係を大切に個別に支援していることを伺った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を大切にすると共に、孤立することのないよう、職員が橋渡ししたりしてご利用者様同士の関わりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、お手紙やはがきを出し、相談や支援がいつでもできるよう努めている。次に住まれる場所(施設)へ、必要な情報提供もやっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や思いをしっかり受容し、カンファレンス、ミーティングを開きケアプランの見直しを必要に応じて行う。意思表示できない方は、日々の観察、表情、変化、行動から思いなどが分かるよう努めている。	家族、友人、知人からの情報、日々の生活から察している。把握した思いが叶った時「よかった、面白かった」などの言葉がある。「動けるうちに家族と出かきたい」という願いが多い。今後、施設全体で協力して取組んでいく方針を伺った。	更に思いや意向を把握し易くする為に、食事、入浴、排泄、居室等で1対1の援助をしている時に発せられる言葉、つぶやき等を大切に書き留め職員で共有出来る工夫をすることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報収集や、ご利用者様とのコミュニケーションの中から、ご本人、ご家族様と馴染みの関係を築き、把握できるように努めている。またプライバシーにも配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自ができる事、理解できる事を、生活の中から発見し、ミーティング、カンファレンスに於いて職員全員が、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医師、看護師からの意見を基に、毎月モニタリング用紙に書き込みケアマネを中心に、カンファレンスにて意見交換を行い、ご本人に適した介護計画を作成している。また必要に応じ、随時検討し計画を立て直している。	家族に対して面会、行事参加、電話連絡の折など機会ある毎に介護計画に対する意向の確認をしている。モニタリングから介護計画の立案まで一連の流れでチームで介護計画を作成し実践されている。全ての職員が読みやすく、書き易い書式に工夫が見られた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日報に記入し、職員全員が情報を共有している。申し送り時での報告、確認、話し合いを行い、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々の状況に合わせて、柔軟なサービスが実施できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の相談員、区長、民生委員地域の方々、学生の来所時に、情報交換を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前説明の折、かかりつけ医をお聞きしたり、在宅クリニックの協力を24時間行える事を伝え、同意を得て利用されている。希望があれば、引き続きかかりつけ医の利用もできる事を伝えている。	入居時にかかりつけ医について十分な説明をし、家族が決めている。殆どの家族は24時間対応可能な在宅クリニックを選んでいる。緊急時の通院は職員。歯科受診介助の多くは家族が対応している。訪問看護週3回、在宅クリニックの往診週1回の医療体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回巡回時、気づいた点等を相談し、対応方法を指導して頂き、健康管理を行っている。また、いつでも連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の医療機関、在宅クリニックの医師、看護師を含め、入退院時には、医療機関と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族、医師、看護師と話し合い、ご利用者様、ご家族の意向を尊重した方法を決定している。	「看取りにおける指針、看取り介護についての同意書」を確認した。医師の判断で家族との話し合いをしている。平成19年からホームでの看取りをしている。看取り期に本人から「自宅に行ってきたい」思いに医師、看護師、職員、家族の連携の中、無事に帰宅して来たことを伺った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	在宅クリニックの医師、看護師の協力により、緊急時等指示を頂きながら対応している。また職員も、緊急対応のやり方をお教えて頂き実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を行っている。法人施設との合同訓練にも参加したり、毎月ミニ訓練を実施している。地域の方にも協力頂けるようお願いしている。	1年間重点課題で取組んだ。地域の消防団による施設見学、防災関係の点検をし状況把握がされた。震災後、備蓄品、備品の見直し、安全確保のための訓練等実施している。避難確認を確実にする為に表札の裏に赤字で「確認済み」の表示等具体的な取組をしている事を確認した。	入居者の機能低下に伴い避難誘導が困難な状況になって来ていることから、入居者の安全確保のために地域を含めた取組が望まれる。行政、消防署等の助言を得ながら地域との連携に関して具体的に取組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーに配慮し、尊厳を大切にしている。法人が重要視している「接遇」を大切に、日々チェックしている。	「人である」「人生の先輩である」ことを常に意識して接遇している。挨拶、傾聴、言葉使いは家族も含め丁寧にしている。法人の研修に全職員が参加している。人格、誇りやプライバシーを損ねない接遇がされるよう個々の職員に管理者はさりげなく指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様一人ひとりの様子を見たり、1対1の関わりの中から、思いや、希望、自己決定ができる関わりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせたペース、環境に職員が合わせるように心がけている。職員は「待つ」ことの大切さを知っている。何をしたいのか、どのように過ごしたいのかをお聞きし、毎日楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の選択によるオシャレや身だしなみを支援し季節に合わせた服装、美容師による整髪、化粧等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事作りや器、盛り付け、味付けにも気配り、心配りを行い、季節の行事食やご利用者様の希望メニューの提供等、職員とご利用者様が一緒にできる環境作りをしている。畑での収穫物も楽しみにしている。	季節の食材を多く使い、味付け、色取、盛付、器の選択にまで細やかな気配りがされ食欲をそそる食事作りが出来ていた。包丁を使っでの調理、おやつ作り、配下膳等個々の状況を見ながら職員が寄り添って食事作りに関わっている。行事食、希望メニューは入居者の希望で決めて一緒に買物に出掛けている事を伺った。	職員は入居者と一緒に食事をしていたが、弁当持参していた。(汁物等一緒に食する者も一部見受けられたが)入居者と同じお膳を囲むことによりお互いの五感から得られた共通のもとに食事援助が適切に行え、馴染の関係がより深まると考えられる。費用負担の件も視野に入居者と同じ食事を摂る検討をされるよう望む。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事摂取量を記録し、体重の変化、体調の変化を把握し、摂取量の少ない方、水分補給の少ない方など状況に合わせ、医師、看護師、栄養士、STなど他職種とも連携を取りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回食後の口腔ケアを行っている。特に夕食後のケアに力を入れている。また、ご利用者様の能力に応じたケアを行い、口腔内の清潔保持を大切にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	人として最も羞恥でありデリケートな部分なので、プライドを傷つけない細心の注意を払い、声掛け、支援を行っている。ご利用者様の表情、行動を見て、声掛けの仕方、介助のやり方を考え、トイレで排泄ができる環境作りをしている。	排泄パターンは個別に把握している。さりげない声掛けで全員の排便コントロールが出来ている。職員はおむつ内での排泄が不快であることを実感している。訴えのある時は失禁していてもトイレ介助はする。布ショーツの方が多く、日中はおむつ使用者は0人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分摂取量、毎日の運動、散歩に気を配り、医師、看護師、栄養士、リハスタッフにも相談し個別対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を心がけ、個人の希望に添えるよう努力している。入浴には季節行事を取り入れたり、音楽をかけたりして、入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。また羞恥な部分にも配慮している。	滑り止めマット、スチームの設置がされ安心して入浴が楽しめる環境に配慮している。発汗の多い時には随時シャワー浴をする、入浴拒否の方には時間をかけて待つ。個々に応じた入浴援助がされている。菖蒲湯、ゆず湯等季節に合わせた入浴支援もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よい眠りにつく為の体操や散歩、音楽の支援や、希望の場所での昼寝、使い慣れた寝具の使用、落ち着ける環境作り、体調管理の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関して職員全員が理解し、服薬ミスが起こらないよう何回もチェックを行っている。また、服薬後の様子にも気を配っている。医師、看護師に報告、連絡、相談を行い話し合いを密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた役割分担をお願いし、毎日の日課として負担に感じない、そして生きる張り合いに繋がるような支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の健康状態、天候、要望等により、散歩、買い物、外食、ドライブに出かけたり、施設内で、地域の方をお招きし、喫茶店を開催したり、食事を楽しんでいる。ご家族にも事前に案内を行っている。	希望により近所への散歩は随時している。食材の購入ははじめ希望のある時には買物に出掛けている。季節毎(花見、紅葉狩りなど)のドライブ、外食は法人のワゴン車で市内外に出掛け喜ばれている。家族には事前に行事の通知をして一緒に参加できるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、施設で行っているが、買い物に出かけた時は、ご利用者様の買いたい物を購入支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の申し出があれば、いつでも利用できる。ご家族にも協力をお願いしている。返事が書けないご利用者様には、お聞きしながら代筆を行い、関係が途絶えないようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、いつも植物を絶やさず、季節感を感じて頂けるようにしている。その他季節の暖簾をかけたり、ご利用者様の作品を展示したりして、心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	玄関には、鏡餅、生花、食堂ホールには見易い場所に台紙に貼った書初め、干支が飾られ正月らしい空間が作られていた。空気清浄も兼ね観葉植物、花等の鉢物が多く置かれ又、湿、温度計があり健康への配慮が伺えた。照明、掲示物の色彩は控えめで空間に馴染んでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや半円テーブルが置かれており、好きな時に利用して頂き、新聞、雑誌、音楽、読書、昼寝をしたりと利用されている。台所でお茶を楽しまれる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の希望や馴染みの家具、観葉植物、テレビ、作品等飾られており「その人らしい」空間になっている。	使い慣れたベット、寝具等好みに応じたものを使用している。馴染みの家具、大型テレビ等が置かれていた。壁すだれを活用し自作品、慣れ親しんできた自宅、家族写真が拡大して飾ってあった。自宅の花を飾る、鉢ものを育てているなど本人、家族の思いが見える居室であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様のできる事を最大限に発揮して頂き、できない部分への支援を行う事により、力が発揮できるよう努めている。職員も「できる事」「できない事」を把握し、安全で安心できる環境作りを心がけ、自立できるような支援の工夫をしている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議への参加者が少しずつ増えているが、まだまだ地域との繋がりが少ない。	運営推進会議の参加者の枠を広げ地域との繋がりを深める。	地域内にある巡出所のお巡りさんやお店の店長さんにもお話しをし会議に参加して頂く。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。